

長い年月を振り返るときは、「今」も見つめてみる。
何百という人がやってきては去り、今、800人近い職員がここにいる。
わたしたちは、どうして三愛にいるんだろう。

そんなのは人それぞれ。
けれど、
「命を救いたい」「人の役に立ちたい」「なにか、してあげたい」
その単純な優しさは、
この地域の医療介護に踏み込んだ800人の、共通点かもしれない。
「人を助けるお仕事です」
このセリフがこんなに似合う場所は、ほかにない。

できないときもある。うまくいかなかった。くじけそう。
ちょっと落ち込む。…ちょっとどころじゃない。
でも、頼ってくれる人がいる。助けてあげたい。役に立ちたい。

地球の、世界の、国のために、なんてことはできなくても。
目の前の人に手を差し伸べる、
それはできる。
下手でもいい。冷たい手より、不格好だけど温かい手の方が、人は触れたいくなる。

理想を追う毎日をひたすらこなして、もう54年。
だいたい2万回の「今日」がつみかさなって、
だいたい2万回の「明日」にバトンをつなげてきた。

「今日もがんばったなあ」
へとへと顔で泣き笑えるのは、
きっと、めいっぱい誰かの役に立ったということ。
その、たぶん「愛」みたいなひたむきさを、明日もここで続けていく。

2025年、三愛会、55周年。

今日のひたむきを、明日も。